



横浜市立一本松小学校

10月号

令和3年10月4日  
横浜市立一本松小学校  
校長 高桑 透

# 学校だより

「ピンチをチャンスに」

校長 高桑 透

ようやく緊急事態宣言が解除されました。学級を半分に分けて登校する分散登校が終わり、今日から学級全員が揃ってのスタートとなります。1日おきに学校に登校することや、自分の属さないグループの友達とは、顔を合わせる機会がなかったことから、子どもたちは、やっと始まったという気持ちのようで、どの教室にも笑顔が溢れています。

私たち教職員も、緊急事態宣言が解除されたことで、全員揃った教育活動ができることや、今月末に予定している運動会に向けてスタートを切ることができることなど、明るい見通しをもつことができます。ただ、感染症の心配がなくなったわけではなく、今までよりもたくさんの人数が教室に入ることもなるので、これまで以上に、横浜市のガイドラインを遵守しながら、子どもたちの命を守ることを第一に教育活動を行っていきます。引き続き、ご家庭でのご理解ご協力をお願いいたします。

さて、夏休み明けから教室での授業の様子に大きな変化がありました。それは、どの学年もタブレットを使っての学習に積極的に取り組んでいることです。

例えば、1年生はひらがなの練習をタブレットのアプリを使って取り組んでいました。なぞり書きをしていたのですが、何度もやり直すこともできることから、納得できるまで取り組める良さを感じました。もちろん鉛筆をしっかりと持って、筆圧をかけて、ていねいに書く良さもあります。上手に使い分けることで、学習効果が上がると感じられる場面でした。

4年生は、一人ひとりが撮影した、自分の家の近くにあるごみ集積所の写真を使って、学習をしていました。これまでは、みんなで地域のごみ集積所に行き、その場で気づいたことをメモし、学校に戻ってきて話し合いをしたり、行くことができない場合は、教員が写真を撮影し、それを元に話し合いをしたりしていました。今回のように、自分の生活に直接関係のある場所を、それぞれの視点で取材し、それを全体の場で発表するということが、タブレットを使うことによって、取り組みやすくなりました。30人いれば、30通りの気づきや考えが生まれ、その一つひとつを大切に話した話し合い活動を通して、「学び合い」がより活発に行われていました。

分散登校では、同じ授業を2日行うことで、学習の進度がどうしても遅くなってしまいますが、人数が少ないことで、より細かな指導をすることができました。1人1台のタブレットの使い方について、より丁寧に指導することで、授業でも効果的に使用することや、家庭学習でも有効活用することができるようになりました。タブレットが子どもたちや教員にとって、とても身近な学習道具となりました。分散登校というピンチをチャンスに変えて、新しい学習スタイルの第一歩を踏み出すことができました。

しかし、子どもたちにとっての現在のネット環境は、まだまだ整っていません。横浜市でも、不適切なサイトにアクセスできないようにフィルタリングをかけていますが、完全に遮断することは不可能です。ネット社会に出ていく子どもたちが、正しく有効に使うことができるように、引き続き情報モラル教育などを中心に継続的に指導していきます。ご家庭でも、子どもたちが安全に使うことができるようになるために、じっくりと話し合い、ご家庭でのルールを決めるようにしてください。